

平成29年度前期 学群(学部)教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	金子孝一

<p>1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>事前・事後学修を受講者に促す仕組み</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>・受講者に事前・事後学修内容を伝え、さらにその実態を把握する作業は各科目で個々にはされてるが、基盤教育を横断して支援を行える仕組みがない</td> </tr> </table>	課題	事前・事後学修を受講者に促す仕組み	理由	・受講者に事前・事後学修内容を伝え、さらにその実態を把握する作業は各科目で個々にはされてるが、基盤教育を横断して支援を行える仕組みがない
課題	事前・事後学修を受講者に促す仕組み				
理由	・受講者に事前・事後学修内容を伝え、さらにその実態を把握する作業は各科目で個々にはされてるが、基盤教育を横断して支援を行える仕組みがない				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>シラバスの熟度並びにクラスサイズ</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>・特にクラスサイズが大きい科目では、情報の詰め込み過ぎでのシラバス内容の消化不良が指摘されている ・オムニバス科目や単一シラバスでの複数クラス・複数教員担当科目等で、シラバスに齟齬が出ていた</td> </tr> </table>	課題	シラバスの熟度並びにクラスサイズ	理由	・特にクラスサイズが大きい科目では、情報の詰め込み過ぎでのシラバス内容の消化不良が指摘されている ・オムニバス科目や単一シラバスでの複数クラス・複数教員担当科目等で、シラバスに齟齬が出ていた
課題	シラバスの熟度並びにクラスサイズ				
理由	・特にクラスサイズが大きい科目では、情報の詰め込み過ぎでのシラバス内容の消化不良が指摘されている ・オムニバス科目や単一シラバスでの複数クラス・複数教員担当科目等で、シラバスに齟齬が出ていた				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>学習環境の未整備さ</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>・アクティブラーニングを進める教室環境がクラスサイズとの関連で十分できない ・体育館施設は設備定期メンテナンスが全く不十分で、実技系では受講生の事故にも繋がる恐れがある</td> </tr> </table>	課題	学習環境の未整備さ	理由	・アクティブラーニングを進める教室環境がクラスサイズとの関連で十分できない ・体育館施設は設備定期メンテナンスが全く不十分で、実技系では受講生の事故にも繋がる恐れがある
課題	学習環境の未整備さ				
理由	・アクティブラーニングを進める教室環境がクラスサイズとの関連で十分できない ・体育館施設は設備定期メンテナンスが全く不十分で、実技系では受講生の事故にも繋がる恐れがある				
<p>1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p>					
②	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の学内統合システムにも絡むが、Moodle (もしくはMoca) のような基盤教育群で横断して使えるシステムを準備しておくこと、さらに、運用方法について管理者の問題はあるが、マイクロ・ミドルFDにて操作手法の研修をおこなうこと、 ・上記のような支援構築により、課題の出し方や内容など、クラスや担当教員による間接要因の影響を排除していきたい。 				
②	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標にそった情報の選別から、講義内容をコンパクト化するなど、シラバスの熟度に向けた取り組みを行う ・複数教員のオムニバス科目や単一シラバスでの複数クラス・複数教員担当科目などでは、シラバスの普段の見直しを進め、その熟度をあげる取り組みを行う ・成績評価におけるルーブリックの実際の使用も経験値を高めるために必要なので、マイクロFDなどで研修機会を設ける 				
④	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスサイズが変えられないなら、教員配置並びにTA/SA配置、ホワイトボード等設置の工夫を行う ・クラスサイズを変えられるなら、H30から運用される対応教室にての講義等運用を考える ・大和・太白Cとも体育館の設備メンテナンスに予算をつけて確実に実施してもらうよう事務方に要望する 				

<p>2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・Grでの活動は制約があるので、個人で取り組める学習情報の提示により、事前・事後学修の時間の確保を図る ・復習の起点としたリアクションペーパーは学生の疑問に答えるうえで有効だけでなく、意識の高い学生発掘に寄与した ・各回での即日提出の小テストと次回講義の課題提示を行い、随時に講義内容をまとめたレジュメを配布し、学修機会を与えた 	
<p>2ー(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p>	
<p>教員会議、科目分野Mtg、研究・研修会(マイクロFD)を使った情報・事例共有を継続的に行い、教育改善につなげる。尚、検証と改善(抜粋版)は基盤群で共有するにあたり良い資料となる。今後ともこの比較一覧化を継続願いたい。</p>	

平成29年度前期 学群(学部)教育改善計画

学群(学部)名	看護学群(学部)
学群(学部)長名	吉田俊子

1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。	
①	<p>課題 講義や演習全体として、ポイントの提示や難易度、到達度設定はおおむね良好な回答を得ていると思うが、週当たりの学習時間が1時間未満、全くしなかったと回答している科目も多い。一方で、3年生の科目では前期に課題が重なっており、つらいという意見があった。また覚えることが多いというコメントがあるが、覚えるのではなく、理解をしていくことが必要である。</p> <p>理由 自己学習がすすむような取り組みが必要である。また覚えるだけではなく理解がすすむように講義の工夫と科目での調整や連携をはかっていくことが必要と考える。</p>
②	<p>課題 (継続)GW や演習の指導内容が教員によって相違があったり、時間の確保が不十分であること、パワーポイントや資料の工夫をしてほしいという学生の意見がみられた。GWや演習の目的、進め方を学生が理解してすすめていけるように、時間確保や進め方への工夫が必要である。資料や講義は特に事例など具体例を示して抽象化していくと理解がすすむとの意見が散見された。</p> <p>理由 GWや演習の提示の仕方、資料の工夫、教育資料と教科書、レジメなどの関連性を明示してどこに学びのポイントがあるか示していくなどの工夫が求められる。</p>
③	<p>課題 (継続) 授業評価の回答率は前回より向上したが、まだ学群全体で48-8%であり、半数に満たない。</p> <p>理由 学群で講義の時間をとって行ったが、演習などの時間での制約やうまくアクセスできなかったなどの状況も発生した。向上しており、ここからはシステムの問題などもあると思うが、授業改善につなげるためにも回答率をあげていくことが必要である。</p>
1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	<p>現在、カリキュラムWGにて看護学モデルコアカリキュラムとの本学カリキュラムの整合性をチェックする調査に取り組んでいるところであるが、その結果を踏まえ、学修の積み上げの状況と科目間の連携について、教務WG、専門科目担当者会議、教授会(教員会議)の場での確認を行う(平成30年調査終了後～前期)。</p> <p>専門基礎科目、専門科目間で講義や演習の課題の目標、方法、具体的内容、期限などの相互に情報を確認し、カリキュラムマップにそって展開しているか、学生に過重な負担あるいは自己学習課題の提示が不十分になっていないか、教務WG、連携専門科目担当者会議で確認を行う(平成29年度後期・30年前期まで)</p>
②	<p>改善意見に対して、学生の意見を考慮して内容の検討を行うように教授会(教員会議)にて再度周知する。</p> <p>専門基礎科目、専門科目、専門科目間との連携を図っていくために、相互の講義の聴講も含め、資料の閲覧や講義の展開について情報交換を行う。まずは、同学年の前期、後期に開催する隣接領域にて課題の状況について確認し、学生の理解が進むように配置の調整を行う(平成30年度前期まで)</p>
③	<p>時間の確保により、一定の回答率向上が認められたが、システムにうまく入れない学生が散見された。全学でシステムも含め対応を検討していくことが必要である。</p>

2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
<p>ロールプレイや紙上事例の工夫を行った。映像や実際の機器を演習に導入し、また4年生をTAとして参加させることでより学生が実習への現実感をもって取り組むことができるように工夫を行った。</p>	
2ー(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
<p>昨年度に引き続き、専門科目担当者会議、教授会(教員会議)や看護学群のFD開催を通して、学群の教員間で共有をはかっていく。</p>	

平成29年度前期 学群(学部)教育改善計画

学群(学部)名	事業構想学群(学部)
学群(学部)長名	風見正三

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。					
①	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">課 題</td> <td>講義の理解を深めるための授業計画や効果的な伝達方法の明確化を進める必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>予習・復習の進め方や参考事例等の明記が不十分であり、授業計画への精緻化が期待される。</td> </tr> </table>	課 題	講義の理解を深めるための授業計画や効果的な伝達方法の明確化を進める必要がある。	理 由	予習・復習の進め方や参考事例等の明記が不十分であり、授業計画への精緻化が期待される。
課 題	講義の理解を深めるための授業計画や効果的な伝達方法の明確化を進める必要がある。				
理 由	予習・復習の進め方や参考事例等の明記が不十分であり、授業計画への精緻化が期待される。				
②	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">課 題</td> <td>学部や学群の特性や履修モデルを明確化し、効果的なアクティブラーニングの導入検討が必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>各教員のアクティブラーニングに対する理解度には差があり、学類毎に科目特性を踏まえた方法論の検討を行う必要がある</td> </tr> </table>	課 題	学部や学群の特性や履修モデルを明確化し、効果的なアクティブラーニングの導入検討が必要である。	理 由	各教員のアクティブラーニングに対する理解度には差があり、学類毎に科目特性を踏まえた方法論の検討を行う必要がある
課 題	学部や学群の特性や履修モデルを明確化し、効果的なアクティブラーニングの導入検討が必要である。				
理 由	各教員のアクティブラーニングに対する理解度には差があり、学類毎に科目特性を踏まえた方法論の検討を行う必要がある				
③	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">課 題</td> <td>授業運営における戦略的な授業管理メソッドの検討が必要である。今後、効果的な学習支援システムの充実を図ることが求められる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>Moodle の活用方法については定期的に講習を行ってきているが、これらを含めた効果的なツールの検討も必要である。</td> </tr> </table>	課 題	授業運営における戦略的な授業管理メソッドの検討が必要である。今後、効果的な学習支援システムの充実を図ることが求められる。	理 由	Moodle の活用方法については定期的に講習を行ってきているが、これらを含めた効果的なツールの検討も必要である。
課 題	授業運営における戦略的な授業管理メソッドの検討が必要である。今後、効果的な学習支援システムの充実を図ることが求められる。				
理 由	Moodle の活用方法については定期的に講習を行ってきているが、これらを含めた効果的なツールの検討も必要である。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	予習・復習の実態把握を踏まえて、講義の予習や復習のあり方やプロセスについて、スチューデントセンターWG にて検討を行い、その分析結果を教員連絡会議で情報共有する。				
②	学科及び学類のWG を定期的開催し、学類毎の履修モデルを検討し、その経過報告を教員連絡会議やFD で共有するとともに、それらの課題を施設・予算委員会で検討し、環境整備計画に反映させていく。				
③	Moodle を含めた授業管理メソッドを比較考察し、スチューデントセンターWG を中心にとりまとめ、教員連絡会議にて、教職員の情報共有を進める。				

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードへの板書を増やしていくことで学生の集中力をあげる。 ・小グループによる話し合いを増やし、発表機会を設けていく。 ・参考となる事例を取り上げるとともに、事例視察を取り入れていく。 	
2-(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
授業改善計画の実践例について教員連絡会議にて情報共有を図るとともに、PBL やアクティブラーニングの実践的なノウハウについて各学類のWG チームにて調査研究や情報共有を進めていく。教員連絡会議やFD において、定期的に授業改善に関する議論の場を設定し、学類毎の進捗状況をモニタリングしていく。	

平成29年度前期 学群(学部)教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群(学部)
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">継続：授業評価の回答率が30～50%と前年に比べ向上したが、以前の紙ベースでの回答率に比べるとかなり低い。さらなる改善が必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">教員へのヒアリングの結果、講義最終回に時間を取ってコンピュータラボで授業評価を行うよう指示はしているが、実施に至っていないことが理由と考えられる。</td> </tr> </table>	課題	継続：授業評価の回答率が30～50%と前年に比べ向上したが、以前の紙ベースでの回答率に比べるとかなり低い。さらなる改善が必要である。	理由	教員へのヒアリングの結果、講義最終回に時間を取ってコンピュータラボで授業評価を行うよう指示はしているが、実施に至っていないことが理由と考えられる。
課題	継続：授業評価の回答率が30～50%と前年に比べ向上したが、以前の紙ベースでの回答率に比べるとかなり低い。さらなる改善が必要である。				
理由	教員へのヒアリングの結果、講義最終回に時間を取ってコンピュータラボで授業評価を行うよう指示はしているが、実施に至っていないことが理由と考えられる。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">継続：座学講義科目の予習・復習など授業外の学修が相変わらずなされていない。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">学生の自発的な予習・復習意欲が低調な理由として、予習・復習まで必要が無いと判断している学生が多いのではないかと。すなわち予習・復習が必要な講義手法となっていない可能性がある。</td> </tr> </table>	課題	継続：座学講義科目の予習・復習など授業外の学修が相変わらずなされていない。	理由	学生の自発的な予習・復習意欲が低調な理由として、予習・復習まで必要が無いと判断している学生が多いのではないかと。すなわち予習・復習が必要な講義手法となっていない可能性がある。
課題	継続：座学講義科目の予習・復習など授業外の学修が相変わらずなされていない。				
理由	学生の自発的な予習・復習意欲が低調な理由として、予習・復習まで必要が無いと判断している学生が多いのではないかと。すなわち予習・復習が必要な講義手法となっていない可能性がある。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">課題</td> <td style="padding: 5px;">継続：授業評価アンケート結果より、授業の理解度が未だ進まない学生が少なからず存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理由</td> <td style="padding: 5px;">②の予習・復習も行えていないことから、予習・復習以前の問題で基礎学力が身に付いていない可能性が高い。すなわち高校レベルの学修ができていないことが考えられ、高大接続の重要性が再認識させられた。</td> </tr> </table>	課題	継続：授業評価アンケート結果より、授業の理解度が未だ進まない学生が少なからず存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。	理由	②の予習・復習も行えていないことから、予習・復習以前の問題で基礎学力が身に付いていない可能性が高い。すなわち高校レベルの学修ができていないことが考えられ、高大接続の重要性が再認識させられた。
課題	継続：授業評価アンケート結果より、授業の理解度が未だ進まない学生が少なからず存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。				
理由	②の予習・復習も行えていないことから、予習・復習以前の問題で基礎学力が身に付いていない可能性が高い。すなわち高校レベルの学修ができていないことが考えられ、高大接続の重要性が再認識させられた。				
1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	本課題については、1月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化をまずは図る。対策として、授業時間内(14回目、15回目)での実施、コンピュータラボではなく、講義室において自身の携帯やパソコンで回答するよう、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。また、アンケートのコメント記入の促進策についても同様に進める。				
②	本課題については、1月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、後期授業内でのグループワークやLTD(Learning Through Discussion)を通じた課題発掘による授業外学修の定着実現、さらに宿題や小レポート等の活用、定期的な小テストや練習問題等の実施について、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。				
③	本課題については、1月の教員会議や教授会、学類会等で情報の共有化をはかる。双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、まずはグループワーク、ピアサポートシステムについて学群・研究科の教務委員会を中心に講習会等を企画・実施する。さらに、関連科目間の講義内容の一貫性・連続性については、学群・研究科教務委員会を中心に確認作業を実施し、より学修効率の向上を実現する。				

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
「講義の予習箇所のポイントを周知する」、「コメントカードを活用し、次回の授業にフィードバックすることで学修を深める」、「講義資料を事前配布することで予習に一定の効果が認められる」、「討論形式の授業を増やすことで事前学習への意欲を高める」、「講義後に宿題をし、次回、小テストを実施することで基礎力が身に付く」など	
2-(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。	